



株式会社 **アワーズ**



知事対談

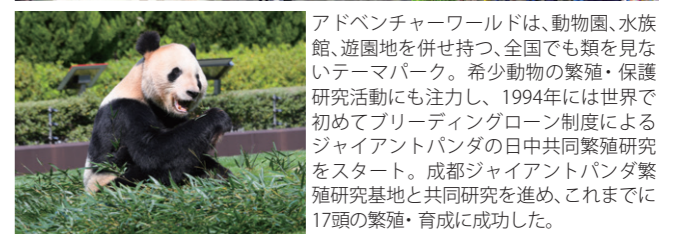
山本雅史 × 仁坂吉伸

株式会社アワーズ
代表取締役社長

和歌山県知事

陸・海・空の140種、約1400頭の動物が暮らす、南紀白浜「アドベンチャーワールド」。
社員一人ひとりが輝き「未来のSmile」を創造する「笑顔あふれるテーマパーク」に秘められた理念経営とは？

関わる全ての人を Smile (しあわせ) に



アドベンチャーワールドは、動物園、水族館、遊園地を併せ持つ、全国でも類を見ないテーマパーク。希少動物の繁殖・保護研究活動にも注力し、1994年には世界で初めてフリーディングローン制度によるジャイアントパンダの日中共同繁殖研究をスタート。成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地と共同研究を進め、これまでに17頭の繁殖・育成に成功した。

仁坂知事(以下仁坂) ● 山本さんが経営される株式会社アワーズは、中国を除くとジャイアントパンダの飼育数世界一を誇るアドベンチャーワールドを運営されています。まずはパンダがやって来たきっかけなどをお聞きしたいと思います。

山本雅史(以下山本) ● 和歌山県と中国山東省との友好提携(1984年締結)が縁となって当園も山東省の動物園との間で協力関係を築いていました。その関係で中国の動物園協会との繋がりが深くなって、繁殖が難しいとされるチーターなどの繁殖実績があったこともあり、日中で共同繁殖を始めるきっかけとなりました。

仁坂 ● 1993年頃でしたでしょうか。私が通産省貿易局の輸入課長をしていた時のことでした。運命的な感じがしますが、故郷和歌山のアドベンチャーワールドからパンダを輸入したいと相談を受けました。ご存知の通りパンダのように希少な動物は、ワシントン条約I種に分類され、学術目的でないこと、国家間の移動をさせてはいけないことになっていきます。それが世間に知られることになり、賛成反対が入り乱れる大騒ぎになりました。当時の中国はパンダの飼育が十分にできるほど経済的余裕もなく、「日本の動物園がパンダを引き取り繁殖に協力して数を増やすべきだ。でないといずれ絶滅してしまうぞ」といった賛成意見と、一方で「野生動物は仮に絶滅したとしても動物園などで飼育してはいけない。野生のままにするべきだ」といった反対意見もありました。両方の話を聞き、国際機関にも照会し議論を尽くし、結論を出すまでに数ヶ月かかりました。アドベンチャーワールドの飼育責任者であった林輝明さんと今の副園長の中尾建子さんが通産省へ説明に来られたのですが、若くて真摯なお二人を見ると、こんなに動物を愛している方々がお世話をされるのなら、絶対に上手くいくだろうと確信できました。歴代の飼育員が中国から飼育方法を学んで、寝食を忘れて

取り組まれてきました。今ではアドベンチャーワールドの育て方は世界的に高く評価されており、非常によかったです。と思っています。

山本 ● 知事を始めた皆さんの方々に支えられ、ジャイアントパンダの繁殖研究を続けてこれたことを嬉しく思います。これまでに17頭の繁殖・育成に成功しました。そのうち11頭が中国に戻り、大家族を作っています。「浜家」と呼ばれているのですが、今では40頭以上の大家族になっていて、子孫は海外の動物園にも行っているそうです。

仁坂 ● 2019年に、アドベンチャーワールドの40周年シンポジウムで出会った成都ジャイアントパンダ繁殖研究基地トップの張志和さんからお誘いを受けて、山本さんや飼育員さん達と一緒に四川省を訪問しました。その時にお会いした四川省の尹力省長がこれまでの関係を高く評価してくださって、今年1月に四川省との友好提携締結に至りました。これもパンダの取り持つ縁です。

**社員一人ひとりが輝く
理念経営とは？**

仁坂 ● 山本社長は、関わるすべての人をSmileにする」という理念で経営されているとお聞きしています。それはどのようなものでしょうか。

山本 ● 会社を創業した祖父から父に経営が継承され、いずれ自分が3代目の経営者になるだろうと思っていました。社長になる前に、自分にどんな経営ができるのかと悶々としていた時期がありました。そんな時にスターバックスジャパンの元CEOである岩田松雄さんの講演を聞き、**理念経営**と呼ばれるものを知りました。一人一人のスタッフが目の前のお客様に対して、コーヒー一杯だけでなく、居心地のいい時間を提供するということも共有している。もしかしたら私でも可能なのではと思いましたが、理念経営とは何かは全く教えていただけません。参加したあるセミナーで「会社の理念より先に、あなたの理念は何ですか、あなたの生きる目的や働く目的は何ですか」と逆に問われましたが、その時は全く答えられませんでした。それから、「私は何のために生きているんだろうか」と考え尽くして、至った答えが「私と私に関わる方々をSmileにする、幸せにする。そのために自分は生きていきたい」ということでした。その時、自分自身が生きていく目的が明確になり「経営者になる」という覚悟ができました。

仁坂 ● 関わる全ての人となるべくたくさんいらつしゃいますが、どのような順番で幸せにするのでしょうか。

山本 ● まずは自分自身が幸せであることが重要で、次に家族、社員の皆さん。そ



してその先にいるお客様や社会という順番です。アワーズの理念は「ここで働きを創るSmileカンパニー」ですが、Smileとは、笑顔だけではなく、「しあわせ」と定義しています。私も含めた全社員が幸せになって初めてお客様に本当の幸せを提供できると考えています。それは池に石を投げた時、波紋が広がっていくようなイメージで、その石が自分たち自身なんです。石が大きければ大きいほど波紋は大きくなります。つまり社会に大きな幸せの輪を広げていくことができます。

仁坂 ● 今、私たちは開放感あふれるオフィスにいますが、色々工夫が詰まっているようにみえます。

山本 ● 私が社長になり初めて行った大きなプロジェクトが、このオフィスを作ることでした。以前は広いパーク内に各部門が点在していて、同僚の名前も知らない

「おもてなしの心」が優れた観光資源となる

仁坂 ● 和歌山県では「おもてなし運動」に取り組んできました。2015年の国

体開催を前に張り切っていたことですが、接客に嫌な思いをした観光客から「二度と行ってやるもんか」といった投書が届いていました。和歌山の人はおもてなしの心を表現することが下手なのです。だからホテル・飲食店の経営者やスタッフ、タクシーの運転手などを対象に接客の講習会をがんがんに開催しました。さらに7万人以上の県民が協力しますよと「おもてなし宣言」をしてくれました。それからトイレが汚いのはものすごく悪印象です。それで「おもてなしトイレ大作戦」という名前を付けて、観光客が使うトイレを徹底的に綺麗にしようという運動を始めました。観光地の公衆トイレは洋式にし、温水洗浄便座を付け、センサー付きの小便器に変えました。主要な所にはオストメイト対応トイレも設置し、熊野古道など水を流せない所はバイオトイレにするなど工夫をしました。市町村にも補助するなどしてこれまでに700箇所を整備しました。日本一、いや世界一トイレの綺麗な県になれたと思っています。これらの積み重ねがあつて今年7月に発表された「じゃらん宿泊旅行調査」の都道府県魅力度ランキングでは、和歌山県は総合満足度1位になりました。ところで山本さんは、循環型パーク」というテーマを掲げていらつしゃいます。

山本 ● 私たちのビジョンに掲げる「笑顔溢れる明るい豊かな社会」の実現のために、4年前にSDGsを経営の軸に据えました。パーク内で排水を再処理して動物舎の清掃に利用したり、草食動物の糞を活用して堆肥を製造しています。また「パンダバンブープロジェクト」と題して、パンダの食事に里山の竹を利用することで里山の荒廃を防ぐとともに、これまで廃棄していた竹幹や食べ残しの竹、糞を資源としてアップサイクルする取り組みを進めています。竹幹を使った「竹あかり」や「竹タンブラー」など工芸品を作ったり、竹幹を集成材やチップに加工作する工場の建設も計画しています。一

知事対談

山本雅史 × 仁坂吉伸

株式会社アワーズ 代表取締役社長
和歌山県知事

ということがありました。それでは悲しいので、統合した新オフィスを作ろうと考えました。全社員を巻き込んで考え、理念を具現化した新オフィスとして完成したのが「麗しの我が家」です。コストは随分かかりましたが、約400人の社員がフリーアドレスのワンフロアで働くようになったことで、社員同士のコミュニケーションとシナジーが生まれました。当社には全国から若い社員が入社してくるのですが、以前は社員同士で結婚して子供が生まれると2人とも辞めてしまうということが起こっていました。そこで「キラボシ」という企業内保育園を作りました。出勤する両親と手を繋いだ子供たちの姿を見かけると嬉しくなります。動物がいっぱいいるパーク内が散歩コースです(笑)。健康によく美味しくものをだけを提供する社員食堂「KOKORO」も作りました。社員のSmileを創るのは経営者の役割です。若い社員がお客様のSmileを作るイベントやアトラクションを自分たちで考えてくれるようになりました。またコロナ禍において24時間のYouTubeライブ配信を実施し、全社員を巻き込み様々なコンテンツを作り上げることで、オンラインによる価値創造の可能性を広げてくれました。現在では17万人以上のチャンネル登録があり、オンラインでもSmileの輪が広がっています。

ングでは、和歌山県は総合満足度1位になりました。ところで山本さんは、循環型パーク」というテーマを掲げていらつしゃいます。



社長就任後はじめての大プロジェクト「麗しの我が家」。

山本雅史

1977年大阪府生まれ。大学卒業後、祖父が創業し父が社長を務めるグループの中核建設会社に入社。2004年アドベンチャーワールドの運営会社であるアワーズへ移籍、2015年代表取締役社長就任。家族は妻、2人の息子(9歳と5歳)。趣味は旅行、読書、ゴルフ(平均スコア86)、eスポーツ、人狼ゲーム、ジャグリング、仕事。

昨年には、地域と一緒に資源のことを考えようと、竹をテーマにしたパンダバンブーE.X.P.O.を開催しました。

仁坂 ● そういった自然との共生が評価されたのか、和歌山県はロンリープラネット「Best in Travel」サステイナビリティ部門で世界一になりました。和歌山県にとってアドベンチャーワールドはものすごい観光資源です。パンダを見たい人がたくさん来れば、白浜で宿泊や飲食をしますし、他の地域にも周遊してくれます。JRは特急「パンダくろしお」を走らせていますし、県の観光PRキャラクターもパンダ「わかばん」です。和歌山県は本当にパンダばかりですね(笑)。最後に山本さんは、アドベンチャーワールドは地域にとってどのような存在でありたいとお考えですか。

山本 ● 私たちが関わることで、地域の皆さんを繋げる「HUB」のような存在になりたいと思っています。コロナ禍で多くの方々に支えられていることに改めて気付かされました。恩返しするためには、私たちがもっと成長する必要があります。そして成長した私たちがお客様にSmileを提供し、未来を担う子供たちに良い社会を引き継ぐことが、私たちができることだと考えています。地域の方々に愛されるパークに成長して、未来と一緒に創っていききたいと思

